

令和 8 年度 旭川市社会教育委員会議 第 1 回専門部会議事録

日時	令和 8 年 8 月 2 6 日（水）午後 3 時 0 0 分～5 時 0 0 分
場所	旭川市総合庁舎 4 階 教育委員会室
出席者（委員）	岩永委員、斉藤委員、谷川委員、濱中委員（4 名）
出席者（職員）	松野郷社会教育部次長、小島社会教育課主幹、浪内社会教育課職員（3 名）
公開・非公開の別	公開
傍聴者	0 名
会議内容	1 開会 2 議事 (1) 諮問事項 1 「旭川市の社会教育の現状と課題」について (2) 諮問事項 2 「現状と課題に対しての基本的方向性」について (3) 諮問事項 3 「基本的方向性を踏まえた具体的な推進方策」について 3 その他 (1) 次期社会教育計画の策定スケジュールについて 4 閉会
会議資料	< 配付資料 > 資料 1 第 1 回専門部会資料 資料 2 中央教育審議会生涯学習分科会 社会教育の在り方に関する特別部会 「審議事項 1 に関する意見の整理【概要】」 資料 3 中央教育審議会生涯学習分科会 社会教育の在り方に関する特別部会 「審議事項 2 に関する意見の整理【概要】」

議事録	
議長	今日は、前回の社会教育委員会議（以下「全体会」という。）で依頼したアンケートについて、各委員が提出した意見を共有し、どのように答申づくりを進めるかを整理したい。 答申は来年 2 月を予定しているため、年内に答申案作成、年明けに最終調整を行うスケジュールで考えている。 今の社会教育委員の任期は 2 年あるので、来年の計画づくりも基本的に同じメンバーで検討する形になる。 それでは、社会教育委員に行ったアンケート結果の報告をお願いしたい。
委員	アンケート結果は、以下のとおり。 キャッチコピーは、「つながり」や「小さな声にも耳を傾ける（傾聴）」、「学びの感動」といった内容が多い。これらは、前回の全体会で示した方針の 9 項目を意識して出されたものではなく、各委員の思いが綴られた印象。

委員	「キャッチコピーを考えてください」と言われても、なかなか良い言葉が出てこない。採用されなくても自分の思いさえ伝われば十分、ほかに良い言葉があればそちらでいい、と考えながら書いた。
議長	キャッチコピーは、今後、旭川市が目指す「合言葉」のようなもの。部会のメンバーで、各意見を全体会に提示できるようにしていきたい。
委員	キャッチコピーは、どのように答申に整理されるのか。
議長	答申の全体像について、自分のイメージはある。ただし、全体像から始めると議論がスムーズに進まないと考えた。そこで、まずは「こんなまちにしたい」というキャッチコピーという形で意見を出してもらうことにした。
委員	諮問事項は全部で4項目ある。 諮問事項1は「現状と課題、基本的方向性」について整理するもの。 諮問事項3は「具体的な推進方策」に関するもの。頂いた意見は、主に基本的方向性や推進方策に関わってくるもの。現状と課題を整理した上で、キャッチコピーや方策を整理するという流れが分かりやすい。
議長	現状・課題については、毎年行っている「点検・評価」から、事務局で整理してもらうのが適当。「点検・評価」の結果が、次の計画につながっていく。 事務局で整理した現状・課題について、各委員の意見を加味して整理する。その上で、今後、社会教育行政として何を行うべきか、という話になる。 また、これまでの「点検・評価」のあり方が形式的だったのではないか。何のために「点検・評価」を行うのかを考えなければならない。この点については、部会で議論し、答申で強調したい。
委員	今後の進め方は理解。部会に参加しない委員に上手く共有できないと、自分たちの意見がどのように答申に生かされるのかが分かりづらいと思う。 現状・課題と、出された意見を繋げてあげることで、社会教育委員全員が答申作成までの流れをイメージしやすい。
議長	次回の全体会で、答申づくりに向けた議論の時間はどのくらいあるのか。
事務局	今回の議題は答申関係のみなので、議論する時間は十分にある。 なお、次回を含め全体会は、今後2回を予定している。
議長	今回、「答申案の形となる考え方」を示すか迷った。固定的な考えになるのも良くないと思う一方、ある程度の形を示さないと議論が迷走してしまう。 これまで「学校を手助けする地域づくり」という感覚が強かったと思うが、これからは「子どもたちや学生自身が地域の担い手・主役になる時代」。 大人が「子どもたちのために何かをやってあげる」発想ではなく、子どもや若者が、その地域を元気にする起爆剤となる視点が必要。 子ども・若者が減少しているからこそ、若い人たちが意見を言い、活躍し、街づくりに参画できる環境づくりが重要だと思う。

	学校運営協議会の会議で、生徒自身に意見を伝えてもらう取組を行った自分の経験から、旭川市ならではの「若者が主役となる地域学校協働活動のスタイル」を提示できる。これが答申で提案したい1つ目。 2つ目は「自己肯定感や自己有用感の低さ」についてで、自分は人の役に立っている、認められているという実感が低い。ネガティブなニュースばかりが注目され、まちの魅力を大人が発信できていない。子どもたち自身が夢や考えを語れるようにしたい。 3つ目は「ジオパーク」や「アイヌ文化関連」、「地域協働活動」といった旭川市独自の取組としての強み・特徴を答申に位置付けたい。
議長	前回と違い、今回は計画策定作業の1年前に諮問があるので、しっかりとした答申を作ることができる。つまり、次期はこんな計画が良いと提言できる。 答申の構成案だが、まず「はじめに」からスタートしたい。 「はじめに」は、社会教育にかける思いや社会教育委員としての決意などについて、私が代表して書かせてもらっても良いか提案したい。 社会教育としては、「知っているけれどやらない」、「できるけれどやらない」という選択肢はあるが、「知らないからやれない」、「分からないから挑戦できない」という状況は良くない。そうした状況が無くなるような社会教育を推進したいと思っている。 次に、諮問事項1と2は、事務局中心でまとめてもらいつつ、委員の意見も加味して整理する。 諮問事項3は、前回の全体会で示した9項目について必要と思うことを記載したい。ここには皆さんから出された意見が整理され、社会教育委員会議の意見として反映されることを想定している。 諮問事項4は、今の「点検・評価」のあり方についてだが、学校教育との関係もあるので、社会教育だけを特化して変えることは難しいと思いつつも、部会で「この評価方法の方が良いのでは」という提案ができればと考えている。 最後に「まとめ」として、社会教育委員の意見を拾い上げ、私に書かせていただきたい。このように答申の構成を考えている。
委員	答申の構成と考え方について理解できた。 「点検・評価」は、社会教育委員が交替されるたびに指摘されてきて、例えば、達成度が低いとしか読み取れないような点検のあり方や、定量的な評価と定性的な評価のギャップの解消などといった課題がある。 市民目線で評価結果が伝わる「点検・評価」になればと思う。
議長	現計画は12年間の計画期間であるため、策定当時に立てた目標や施策、評価内容が今の時代に合っているのかどうかを検討する必要がある。

委員	社会教育の中に文化や芸術が含まれているが、芸術においては一律の基準で評価できるものではない。学校教育と社会教育の「点検・評価」を単純に並列して示すことが良いのか、答申を通じて可能な改善につなげられたらと思う。
議長	答申は、社会教育委員として「こういう理念を共有している」という土台を示すこと。次期計画をつくる段階で、委員共通の理念やキャッチコピーが固まっていることが必要。
委員	アンケートの回答内容と、議長が示した9項目を照らし合わせてみた。大学との連携以外は、何かしらの形で皆さんの意見が当てはまっている。これらの意見を9項目に取り入れることで、委員の声が反映されると考えている。
議長	大学との連携については、旭川には市立大学があるので、行政側として位置づけたい項目だと想像する。ただし、COC（センター・オブ・コミュニティ）は少し前の考え方である。
委員	大学も、現在は単に入学者を集めるためだけでなく、ステークホルダーや学生がフィールドワーク等でお世話になる地域に対して成果を発信していかなければならない。もちろんCOCの役割もあるが、現在は「人材供給の場」としての役割が求められている。
議長	次回の全体会で答申の構成案を提示したいが、何か意見はあるか。
委員	字だけだと分かりづらいので、字を色分けしたり、アイコンを使ったりして工夫したい。ポンチ絵（イメージ図）等の作成は可能か。
委員	委員の意見をビジュアルに紐づけて整理することは可能。
事務局	次回の全体会は、委員全体で共通理解が図れるように進めたい。
委員	中間見直しで追加された「成果指標」は、施策にどう反映されているのか。
事務局	中間見直し前は、「何人参加したか」という「活動指標」の数字ばかりに目が行き、「参加した市民の意識がどう変わったか（参加者の行動変容）」という視点が不足していた。 「成果指標」の導入により、事業を企画する段階で「市民にどう影響を与えるか」の意識は確実に高まっている。
委員	先日の資料で、事業参加者の満足度は85%～100%と非常に高い数値が出ている一方、一般市民を対象とした「社会教育施策の満足度」は約16%しかなかった。これは事業の中身に不満があるのではなく、そもそも市民の8割以上が事業に参加していないという実態を示しているのではないか。 限られた事業参加者の中で、一般市民の満足度の数値を高めること自体難しいと思う。こうした状況も踏まえて評価手法を検討することが必要。
事務局	一般市民には社会教育の理解が十分に行き届いていないことは課題として認識。30万人規模の都市で市民全体の声をきめ細かく拾うのは難しく、現状は「市政モニター制度」の登録者の回答をもとに評価している状況。

	来年、総合的な計画（マスタープラン）の改定がある。その関係で、より多くの市民を対象とした市民アンケート調査について、質問内容の見直しがあれば、適切な評価につながるよう工夫していきたい。
委員	社会教育の先進事例では、コア層を大事にしながら、その人たちをコーディネーターとして、未開拓の市民層をうまく巻き込む仕組みをつくっている。 そうした取組について、評価できる指標が作れると良い。
委員	学校の教員でも「社会教育とは何か」をよく知らない人も多い。皆がつながるきっかけとして、社会教育の理解者をどう増やしていくかが大切。
議長	社会教育は「教育」なので、意図的な計画が必要。「知らない、分からない、できないからやらない」という市民をどうやって「知っている上で選択できる」ようにしていくか。そこを言葉にしていくのが社会教育行政の役割。 社会教育委員からの指摘や提言は、行政側の後押しとなる要素もあるので、そうした部分も意識して答申をまとめたい。
委員	行政の「縦割り」も問題。例えば、公民館で事業を行うとしても、私の関わる分野（子育て支援や家庭教育など）は、別の部局の管轄でもあるので、すり合わせがうまくいかず、それぞれがバラバラに動いてしまう。
事務局	以前よりも部局間連携は進んでいるが、連携が十分にできていない部分もあるかもしれない。皆さんの活動の中での気づいた点は伝えていただきたい。
委員	文化・芸術分野では、横のつながりができ始めている。 例えば、中原悌二郎記念彫刻美術館では、収蔵庫の増設ができない中、収蔵品が10倍に増えているが、博物館のスペースを借りたり、冷房のない展示室の代わりに図書館や科学館の機材や場所を融通して講座を行ったりしている。 また、道立美術館と共同で教育普及事業を行ったりするなど、芸術関連は横のつながりが生まれやすい分野なので、これを先行事例として他分野に広げていければ良いと思う。
議長	様々な意見が出たが、次回の全体会について次のように提案・決定したい。 全体のスタンスとして、今回の部会の中で話し合われたことを提示する。 「点検・評価」を踏まえた3つのコンセプト（若者の活躍、自己肯定感、旭川独自の強みの位置付け）について、事務局に資料を作ってもらい、全体会で提示したい。 答申の構成案は、スタートに「はじめに」があり、その後に諮問事項1から4、そして最後に「まとめ」の順番で作っていく。 「はじめに」は、社会教育委員を代表して私の思いを書かせてもらいたい。特に、委員の皆さんと一緒に答申をまとめたかったという思いを伝えたいし、「知らないから挑戦できない不条理をなくしたい」という考えも加えたい。

	諮問事項１（現状と課題）と２（基本的方向性）については、事務局が本日の資料（点検・評価の振り返りなど）をもとに作成した概要資料を使い、当日説明をしてもらう。 事務局は、前回の会議で委員から出された個別意見も加味して資料を作成して欲しい。当日は、それを示した上で「これ以外に現状の課題として何か追加する点はないか」を委員全体に問いかけて確認したい。 諮問事項３（推進方策）については、アンケートを担当した委員から説明をお願いしたい。提示した９項目に対し、大学との連携（項目８）以外は、何かしらの形で当てはまっていた、という事実を共有したい。 意見の提示に当たっては、文字だけでは分かりにくいいため、アイコン、ポンチ絵等を使ってビジュアル的に見せたい。 例えば「居場所」の項目なら「誰一人取り残さない」等のアイコンを使い、イメージを広げられるようにする。そして、スライドに意見が紐づいている様子を提示した上で９項目について、皆さんから付け足したい意見を求め、肉付けしていきたい。 キャッチコピーは、まとめて全部示すと委員の集中力が持たず、議論が迷走するため、会議の後半で提示する。 諮問事項４（点検・評価の在り方）は、専門部会の中で出た課題や話題（行政の縦割りの弊害、新規予算のしがらみ、形式的な評価手法、市民モニターの限界など）を箇条書きにしたものを提示し、各委員の「実は自分もこう思う」、「こういう評価の仕方が良いのではないか」といった意見を引き出すきっかけとしたい。最終的には事務局に整理してもらうが、叩き台は社会教育委員でつくりたい。 「まとめ」については、部会と全体会の議論を重ね、最終的には答申を渡す際に委員の総意として、締めくくりの挨拶のような形でまとめたい。次回の全体会では、専門部会で案を考えて提案する流れを伝えるにとどめたい。 専門部会では、答申の構成について話し合ったが、さらに全体会で意見をいただきたいと思っている。
事務局	「実践事例（社会教育委員の取り組み）」の整理時期は、いつ頃か。
議長	「実践事例」は、次期計画の中に「委員の様々な活動例」を盛り込むことを想定している。今後の会議の中で段階的に問いかけていきたい。
議長	その他「次期社会教育計画の策定スケジュール」について説明願う。
事務局	次回の社会教育委員会会議（全体会）は、１０月２０日（火）１４：００～を予定している。委員には、改めて正式に御連絡する。 その他として、砂川市で行う「社会教育委員が主催する事業」及び「第７１回全国社会教育研究大会北海道大会」について情報提供する。